

事例
B-①福井県・わかさ東商工会
スポーツ観光の地域ブランド化「若狭路スポーツトリップ」事業

(平成27年7月取材)

1. 面的支援の概要

(1) 活動・支援のきっかけ

① 地域の状況

わかさ東商工会の管轄エリアである美浜町、若狭町は、若狭湾や三方五湖などの観光資源に恵まれ、観光サービス業が基幹産業となっているが、年々観光客数が減少し、ピーク時に比べ半減している。両町とも1990年頃から、レガッタ大会や五木マラソン、若狭三方五湖ツーデーマーチなどを開催しスポーツ観光に力を入れてきたが、2つの行政区に跨っているため、観光情報の発信が分散し、総合的なインパクトに欠けていた。

② 地域・関係者の動き

宿泊事業者もまた、体験型観光を採り入れ、平成16年頃より独自スポーツメニューを提供するようになってきていた。そのような中、民宿「湖上館PAMCO」の2代目・田辺代表が中心となって、平成24年5月に若狭路を自転車で巡る「若狭路センチュリーライド」を民間の力で開催し、900人近くの参加者を集めた。同年10月には自然の中を駆ける「若狭路トレイルラン」を、翌年8月には「若狭路オープンウォータースイミング」を続けざまに開催し、合わせて約2,000人の参加者を集めるまでになった。

③ 商工会による活動・支援のきっかけ

わかさ東商工会も地域活性化を図るべく、地域資源を活用した特産品開発支援を進めてきたが、田辺代表から相談を受けた吉田指導員は、この動きを美浜町・若狭町の枠組みを超えた「スポーツ、健康」をテーマにした情報発信事業「若狭路スポーツトリップ」事業として発展させることにした。両町をカバーする当会こそが、総合的な情報発信が可能な立場にあると考えたからである。また、今まで進めてきた特産品開発事業との融合で、観光宿泊業以外の事業者との連携も期待できると考えた。



スポーツイベントを集約したポータルサイト「若狭路スポーツトリップ」と統一ロゴ(下)。
サイトには、美浜町、若狭町だけでなく小浜市など嶺南地域のスポーツイベント情報も含まれている。



(2) 支援概略と特徴

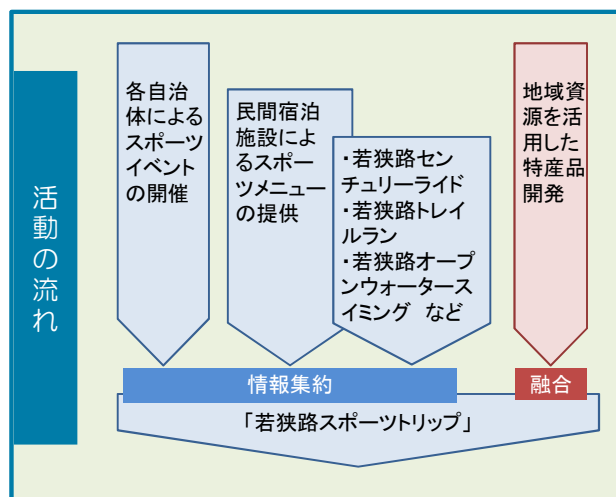
① 支援概略

支援内容は、大きく2つの分野に分かれる。一つはスポーツイベント情報のワンストップ発信である。これは平成26年度∞全国展開事業を活用し進められた。統一ロゴやキャッチコピーを用いたポータルサイト、Facebook、ポスター、チラシ等のPRツールを整備することでブランド化を図った。現在、官民にかかわらずエリア内のスポーツイベント情報が、ポータルサイト「若狭路スポーツトリップ <http://www.wakasaji-st.com>」で提供されている。同時に、スポーツ展示会「スポルティック2014」への出展や観光マッチング商談会に参加し、「若狭路スポーツトリップ」をPRした。

もう一つが、特産品開発事業との融合である。以前より進めていた梅やへしこなどの地域資源の商品開発に「健康」のテーマを付加すると共に、イベント会場のブース等での販売機会を提供した。

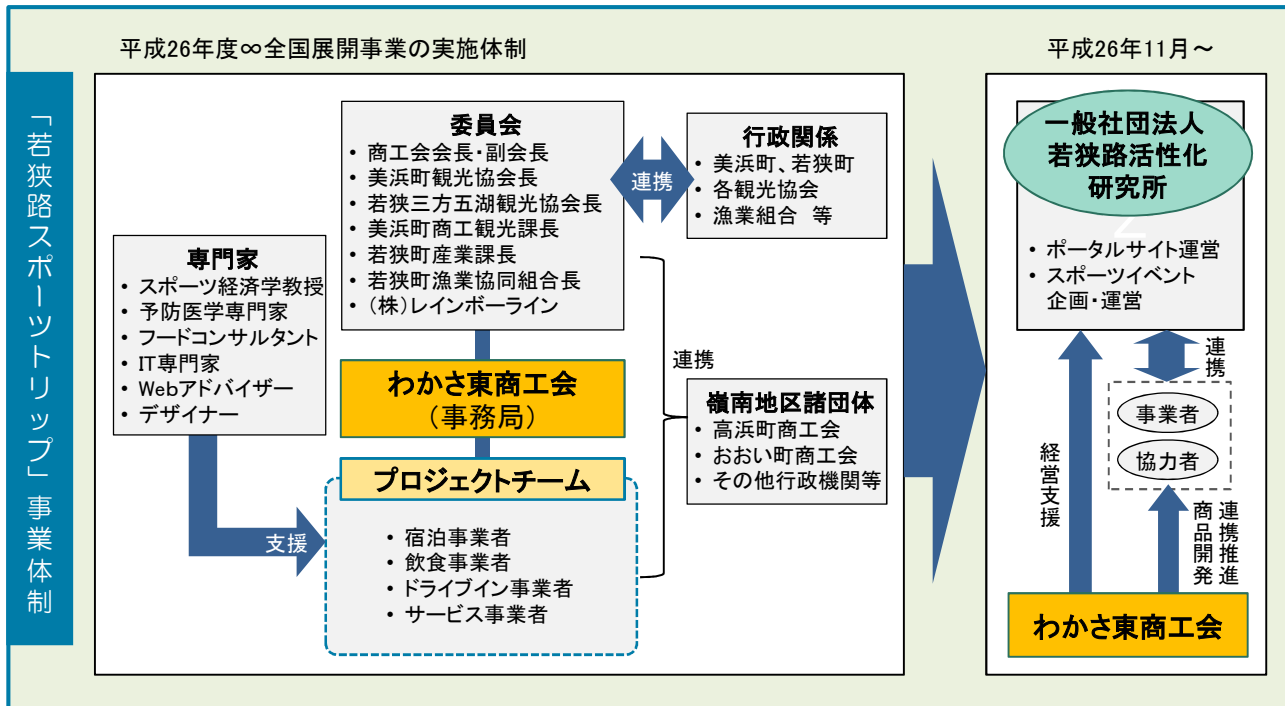
② 支援手法の特徴

本事例で着目したいのが、イベント参加費用に予め特産品の販売券を組み込んだことである。500円のお土産チケットを付けることで、イベント参加者に特産品購入等を促し、宿泊事業者、製造業者、物販業者などへの面的波及効果を狙っている。この仕掛けは、前述したサイト構築より前、平成23年度∞全国展開事業の活用により開始されている。現在は「若狭路センチュリーライド」のみでの展開だが、いずれは、他のイベントにも広げていく計画である。



福井県・わかさ東商工会
スポーツ観光の地域ブランド化「若狭路スポーツトリップ」事業

2. 支援組織・地域内連携スキーム



(1) 当初の体制・スキーム

事業開始当初は、美浜町、若狭町の行政や観光協会等の委員会と、スポーツ経済学教授やデザイナーなどの専門家による支援を受け、両町の代表的な事業者によるプロジェクトチームにより事業が進められた。スポーツイベントや自然体験を活用した地域振興をテーマにした研修会を経て、前述した「若狭路スポーツトリップ」のブランド構築やポータルサイトの仕組みを固めていった。

参画事業者には、スポーツイベントの推進役や協力者の事業者も含まれていたため、プロジェクトの推進は円滑に進んだ。

(2) 現在の体制・スキーム

吉田指導員は、当初より、やる気のある事業者を中心とした組織に事業運営を移管することを計画していた。平成26年11月に田辺代表が理事長を務める「一般社団法人 若狭路活性化研究所」が設立され、現在は同法人がサイトの運営や「若狭路センチュリーライド」「若狭路トレイルラン」「若狭路オープンウォータースイミング」等のスポーツイベントの運営を行っている。

商工会では、同法人の施策活用支援や経営支援のほか、スポーツに困った特産品開発など、プロジェクトの幅を広げる活動を行っている。



「若狭路センチュリーライド」を始めた民宿「湖上館 PAMCO」の田辺代表(左)と吉田指導員(右)。田辺代表はスポーツの愛好家で、宿泊業の傍ら自然体験プログラム「あそぼうや」を企画・運営するほか、(一社)若狭路活性化研究所の代表理事を務め、「若狭・三方五湖の自然+スポーツ・遊び」の新たな観光魅力を発信する活動のキーパーソンである。



商工会の支援で開発した特産品(写真手前)を販売するドライブイン「があでんばく五湖の駅」を運営する(株)ミハマランドの谷口代表(右)。同社は、平成23年度事業で「へしこの粕漬け」を開発し製造業に進出した。スポーツイベントでは、給水所でのへしこ茶漬けの提供など、ボランティアアベースでイベントを裏から支えている。



三方湖畔の天然温泉と海鮮活魚料理の宿「岡三屋彩かさね」の岡代表(左)。岡代表は、田辺代表同様に自転車ファンであり、「若狭路センチュリーライド」ではコース設計などの企画をサポートし、先導役や最後尾のライダーに付き添うスイーパーを務める。(一社)若狭路活性化研究所の理事でもある。

福井県・わかさ東商工会

スポーツ観光の地域ブランド化「若狭路スポーツトリップ」事業

3 成果・地域への影響

① 「若狭路スポーツトリップ」のブランド化と知名度の向上

統一ブランドやロゴ策定、ポータルサイトの構築により、今まで別個に発信していた若狭路のスポーツイベントのブランド化が図れ、情報発信も一元化された。スポーツ展示会出展やスポーツ誌への広告掲載などの広報・PRを行った結果、スポーツ指導者やスポーツツーリズム関係者との人脈が形成され、イベント誘致などの商談も進んでいる。また、本活動が「第3回スポーツ振興賞」で賞を受賞するなど、スポーツツーリズム界での知名度も上がってきている。

② 運営組織の構築と民間力の活用

「一般社団法人 若狭路活性化研究所」の創設と運営移管によって、行政区画に捕らわれない広域のスポーツイベントとの連携が可能になった。主体が民間団体なので、参画事業者も利益を追求し易くなり、域内の宿泊事業者や特産品開発事業者、物販事業者との連携も自由に行える体制になっている。助成金に頼らない持続可能な活動基盤を築けたことは大きな成果と言える。

③ スポーツイベントによる経済活性化

知名度向上のための広報活動が効を奏して、平成27年5月の「若狭路センチュリーライド」は前年度より12%多い1,200名強の参加者を集めた。この参加者が使ったお土産チケット500円の売上60万円に加え、お店での“ついで買い”を誘い、物販事業者の売上が3~5割増しになったという。また、以前は空きのあった宿泊施設の稼働率が、イベント期間中は100%近くに上昇したことも一連の活動の成果である。

このように地域一丸となった情報発信は、徐々にではあるが、地域経済にも好影響を与えている。



「若狭路センチュリーライド」のロゴ(上)とイベントの様相。自転車愛好者の間では有名なイベントになってきている。

4 今後の計画

① スポーツトリップに因んだ特産品や食の開発

吉田指導員としては、今後はスポーツや健康をテーマにした商品開発に力を入れる計画である。当地には、疲労回復効果がある若狭梅や、DHAやビタミンB群などを含むへしこなど、体に良い地域資源が存在する。これらを活用して、若狭ならではの健康に良い商品や飲食メニューを開発し、スポーツトリップとの相乗効果で地域を盛り上げていきたいと考えている。

② 行政との連携による事業発展

わかさ東商工会では、行政や観光協会に働きかけて協力を取付け、もっと多くの宿泊事業者などの参画を促進したいと考えている。

また、事業者や行政に施策情報提供や提案を適宜行い、長期的視野で事業発展をサポートする心づもりである。若狭町で進めている子供の団体旅行受入れに関しても、(一社)若狭路活性化研究所と連携して協力していく予定である。

5 地域経済活性化のポイント・商工会（指導員）の役割

【ポイント】

- ① 商工会がハブとなった広域連携により、行政区画を超えた地域全体の活性化を目指している。
- ② 活動的な事業者をリーダーに据えることで、事業全体の牽引役を担ってもらった。
- ③ 参画事業者を中心に起ち上げた(一般)若狭路活性化研究所に事業運営を移管。スポーツイベントやポータルサイトなどの事業を継続できる仕組みを構築した。
- ④ イベント参加費へのお土産チケットの組み込みにより、お土産製造業者や物販業者などもメリットを得られる面的波及効果のモデルを作った。

【商工会（指導員）の役割】

- ① 民間事業者のアイデアや活動をすくい上げ、地域全般への波及を仕掛ける。
- ② 施策を活用して、事業全体の青写真の策定と、事業開始のきっかけを作る。
- ③ 行政と行政の繋ぎ役を担う。